

特集関連レポート

テラー業務を効率化する最新タブレットを探る!

（株）ワコムが提供する液晶ペンタブレット「手書きによる電子サインソリューション」

しっくりなじむ書き心地に加え 事務効率化もリスク削減も可能に

ここまで金融機関におけるタブレットの活用方法を見てきたが、以下では、現在どのようなタブレットが金融機関で導入され、使われているのかを見ていこう。

テラー業務を効率化する製品として、株式会社ワコムの「液晶ペンタブレットと電子サインソフトウェア」を取り上げる。

株

株式会社ワコムは、もともとはコンピュータグラフィックスで映画やゲームを製作したり、スポーツウェアなどをデザインしたりする際に使われる「液晶ペンタブレット」という専用のペンを備えたデジタルインターフェースを開発・提供する会社だ。

その技術を生命保険の契約やクレジットカード決済などに応用することで、業務の効率化を支援してきた。現在ワコムの製品は世界16カ国100以上の金融機関で採用されている。さらに、PDFなどの電子文書へサインを可能にする「電子サインソフトウェア」も提供している。

その最新モデルの液晶ペンタブレット「DTK-1651」は、基幹システムや情報システムと連携させることで、営業店端末やお客様が手書きで入力できる電子記帳台として利用できる。「書類を原寸大で画面に映しながら直接電子ペンで記帳したい」「机の上に置きやすいフラットなデザイン

紙に書くような書き味と正確性を実現

DTK-1651の最大の特徴

なくなるのである。

これにより、例えば口座開設手続きにおいて届出印の代わりに電子サインを登録しておけば、払戻時に預金名義人の特定を電子サインで行えるようになる。電子サインは印鑑よりも偽造が難しいため、他人によるなりすましは起きにくい。印鑑の紛失もなく安心度や信頼性が高く、改印の変更届け出も必要なくなるのだ。

「DTK-1651は、OSに依存しないため、WindowsでもMacでも使用可能です。パソコンにつないで利用することが前提であり、基本的には持ち運びは想定していません。窓口に固定して利用することに適しています。CPUやソフトウェアを内蔵しているわけではないので、機器本体が盗まれても個人情報情報が漏えいするといった危険性もないのが利点といえるでしょう」（堀さん）

お客様が記入した内容そのまま記録できる

では、DTK-1651の導入

●液晶タブレット「DTK-1651」



は、電子記帳台のように伝票や申込書等に電子ペンで記入できる点だ。ペン先と液晶のフィルムの「相性」は研究しつくされており、紙に書くような書き味を実現。ペン自体に電池が入っていないため、重すぎることなく鉛筆程度の持ち心地である。

ペンにはICチップが内蔵されており利用者の筆圧を検知する。さらに、電磁誘導方式電子ペンの

位置や動きを認識したデータを伝送。検知した筆圧に応じて太さや細さ、濃淡、払い・止めを正確に再現でき、従来のタブレットで起こりがちな不自然な線の途切れ・飛び・かすれが起きない。

「技術的には、一般的なタッチパネルやタブレットと異なり、専用ペンにのみ反応する仕組みを搭載しているため、画面に直接手を付けたまま描画できます。画面に近づけたペンを認識し、たとえ手が画面にタッチしていてもその手には反応しません。そのため誤作動を抑えられ、紙に書くのと同じように記帳が可能です」

（ビジネス ソリューション Japan BSマーケティングシニアスペシャリスト・堀見彦さん）

一般的なタブレットとタッチペンでは、ペン先と画面の表示にズレが生じるこ

れ、画面上と一致した位置で書き始めと書き終わりが再現できる。このような機能を持つため、筆圧の弱い人や手の不自由な人でも書きやすいということだ。

特に、高齢者はペンを使って書くこと自体になじみがあり、また加齢により握力が弱くなっていたり視力が低下していたりする。こうした点で、DTK-1651はお客様の満足度の向上にも貢献する機器といえるだろう。

電子サインの登録で名義人を特定可能に

DTK-1651は、同社の提供する電子サインソフトウェアと使うことで、印鑑不要となり本人確認の確認記録をデータで作成できることが特長である。また、将来的には筆圧や書き順を測定し、データとして記録。人間の癖を読み取れるため、筆跡鑑定やバイオメトリクス（生体認証）としての活用が期待できる。その分、セキュリティ面が高く、第三者による書類の偽造や模倣という危険性が